NPOREF 海外研修 2017 を実施して

NPOREF 理事長　加藤哲男

特定非営利活動法人福井地域環境研究会（ＮＰＯＲＥＦ）の 2017 年度海外研修は、台風 18 号の中部地方襲来を間近に控えた９月 17 日（日）の午前中にセントレアを離陸するという、綱渡り的な日程で始まることとなった。

今回の研修目的地である四川省には九寨溝という風光明媚な世界遺産があり、成都市在住の筆者の教え子から是非訪問して欲しいと懇願されていた経緯があった。そんな折 2017 年 6 月初旬に福井市を訪問した周永広氏夫妻が九寨溝への同行を示唆したことから、招宴に同席した近藤氏とともに九寨溝を目的地としたＲＥＦ海外研修を企画することとしたものである。6 月中旬には、かねてから取引のあるエービーシーツーリストの出口氏に、九寨溝～黄龍～都江堰のコースのツアー企画を依頼したが、その際、周夫妻との同行を前提として、初日には杭州市を訪問する案としたのであった。旅行社からの見積書が 7 月 2 日に届いたことから、7 月 8 日のＮＰＯＲＥＦ総会において 2017 年度の海外研修計画を公表し、参加者の募集を開始したのである。当初の目論見に反して、参加者の応募が捗々しくない中で、現地時間 2017 年 8 月 8 日 21 時 19 分にマグニチュード 7.0 の九寨溝地震が発生したのであった。この地震では死者や負傷者が多数発生し、自然景観も全く破壊されてしまったと報道され、現地への旅行者の立ち入りも禁止されてしまったのである。

その時点での参加希望者は合計 6 名であったが、九寨溝訪問が絶望的な状況の中で、海外研修開催の採否を検討することとなった。一時は、中止も止む無しといった状況に傾きつつあったが、ツアーの発注段階で予約した航空券の払い戻しが発生すること等の事情を勘案して、目的地を変更する方向で旅行社との交渉が始まったのである。中国の旅行代理店からはヒマラヤ山脈の麓に位置する「海螺溝」氷河地帯を提案されたが、成都市在住の筆者の教え子のアドバイスを考慮して、峨眉山・楽山大仏の世界遺産コースに決定したのが 9 月 7 日であった。成都市から九寨溝までは 420Km 近く離れていて一般道路でのアクセスであるが、楽山大仏までは 150Km 程度で高速道路アクセスであることから日程的には余裕が生じ、都江堰・青城山や成都市内調査も日程に加えることが可能となった。しかしながら、出発の十日前に最終的なツアーコースが確定するという状況となり、旅行社の出口氏には甚だ手数をかける結果となってしまったのである。

漸くツアー実施が本決まりとなり、渡航準備を始めると、今度は台風 18 号の動向が気懸かりとなり始めた。一難去ってまた一難という次第である。夏台風特有の迷走状況がいつまで続くのか気を揉みながら、できるだけゆっくり近付いて欲しいなどと神頼みをする始末であったが、その神頼みが功を奏したのか、私どもは予定時刻より 15 分程早くセントレアを離陸することができたのであった。

九寨溝行は取り止めになったが、航空券が手配済であったことから、杭州訪問は予定通り行われた。上海浦東空港から杭州市へは高速道路を利用して 2 時間半約 200Km の行程であるが、途中の嘉興ＳＡで定番の肉粽に舌鼓を打って定刻通りに大華飯店に到着できた。

大華飯店に陳怡平氏と李偉国氏に来ていただき、5 年振りの再会を果たした後、市内のレストランで交流会が開催された。陳怡平氏の奥様の呉驍穎さんにも参加いただき、合計 9 名での交流会が和気藹藹とした雰囲気の中で実施された。山東省出張のために到着が遅れた周永広氏には 2 次会のビアレストランから参加していただき、脇本氏のジャズボーカルが生オケで披露されるなど、楽しいひと時を過ごした夜となった。

翌朝は快晴に恵まれ、午前中はホテル専用遊覧船で秋の西湖のクルージングを愉しむことができた。思い起こせば、筆者が初めて西湖を訪問した 1991 年夏は第 8 次 REF 海外都市調査団の一員としての参加であり、その時以来春夏秋冬の西湖を愉しみ、今年が 12 回目となった。

筆者は四川省成都市へ 2013 年秋に訪問したことがあり、今回は 2 回目の訪問である。その経験は今回の NPOREF 海外研修にも役立てることができて、教え子の薛峰君との再会も果たすことができた。

ここに今回の研修でお世話になったエービーシーツーリストの出口氏、現地ガイドの丁蜜源さんと李肖肖さん、杭州市の李偉国氏、陳怡平氏、呉驍穎さん、周永広氏の皆さんに心から感謝の意を表するものである。

NPOREF 2017 海外研修交流会 2017.9.17
浙江省杭州市「知味観・仁和路本店」
李偉国氏　近藤明美さん、脇本幹雄氏、陳怡平氏、呉驍穎さん
池田さき子さん、池田達昭氏、加藤哲男氏、近藤幸次氏、

NPOREF 四川省都市・地域づくり調査団　団員名簿

団　長　近藤　幸次　坂川建設㈱会長

幹　事　加藤　哲男　NPOREF 理事長・名古屋産業大学名誉教授

団　員　脇本　幹雄　佐幸測量設計㈱技師長

団　員　池田　達昭　日光産業㈱特別顧問

団　員　近藤　明美

団　員　池田さき子

（敬称略・役職は研修会参加時）

行動記録

月日	着時刻	場所	発時刻	移動手段
９月１６日（土）		福井駅東口	16:00	高速バス
	18:45	名古屋駅新幹線口	18:45	徒歩
	19:00	ホテルチェックイン「チサンイン名古屋」		
１７日（日）		ホテルチェックアウト	7:30	徒歩
	7:45	名鉄名古屋駅	8:01	名鉄
	8:36	中部国際空港	10:15	MU2692 便
	11:32	上海浦東空港	12:55	チャーター車
	16:15	杭州大華飯店着	17:45	徒歩
	18:10	ＲＥＦ交流会「知味観・仁和路本店」	20:00	
１８日（月）		ホテル発	8:30	徒歩
	9:00	西湖クルージング「大華飯店専用船」	10:00	ホテル専用遊覧船
		ホテル発	10:45	チャーター車
	11:30	杭州蕭山空港	13:50	MU5500 便
	16:20	成都双流空港	17:00	チャーター車
	17:40	夕食「陳麻婆豆腐・金沙店」	19:00	
	19:40	成都武候智選暇日酒店着		
１９日（火）	8:00	ＢＲＴバス停調査「紅牌楼西」	8:30	徒歩
		ホテル発	9:05	チャーター車
	10:45	都江堰調査	12:15	徒歩
	12:30	昼食「都江堰市郷土料理レストラン」	13:25	チャーター車
	13:41	青城山調査	16:36	電動車、Lope-Way、徒歩
	18:12	夕食「飲茶レストラン」	19:15	チャーター車
	19:30	ホテル着		

月日	着時刻	場所	発時刻	移動手段
２０日	8:00	都市公園「麗都公園」調査	9:00	徒歩
（水）		ホテル発	9:35	チャーター車
	11:58	昼食「楽山市内ホテルレストラン」	13:08	
	13:24	楽山大仏クルージング調査	13:54	遊覧船
	14:41	楽山広場調査	15:41	徒歩
	16:30	峨眉山世紀陽光大酒店着・夕食		チャーター車
２１日		ホテル発	8:00	チャーター車
（木）	8:23	峨眉山客運中心バスセンター	8:40	登山専用車
	10:31	雷峰洞駐車場	10:45	徒歩、Lope-way
	11:20	金頂	12:00	Lope Way、徒歩
	13:20	昼食「雷峰洞郷土料理レストラン」	14:05	
		雷峰洞駐車場	14:10	登山専用車
	15:42	峨眉山客運中心バスセンター	15:51	チャーター車
	18:30	夕食「飲茶レストラン」	19:30	
	20:00	成都武侯智选假日酒店着		
２２日		ホテル発		チャーター車
（金）	10:00	ジャイアントパンダ繁殖研究基地	12:20	
	12:50	昼食「重慶十八梯火鍋一品天下店」	14:12	
	15:00	武公祠・錦里古街道	17:13	
	17:50	夕食「陳麻婆豆腐・骡马市店 」	19:00	
	19:30	変面ショー「蜀風雅韻劇院」	21:00	
	21:30	ホテル着		
２３日		ホテル発	5:18	チャーター車
（土）	5:38	成都双流空港	7:20	MU5402 便
	9:43	上海浦東空港	12:25	MU719 便
	15:24	中部国際空港	16:17	名鉄
	16:54	名古屋駅	17:19	ＪＲ
	18:59	福井駅		

楽山大仏観光船上において(2017.9.20)

左から近藤明、近藤幸、池田さ、脇本、加藤、池田達

峨眉山金頂において(2017.9.21)

左から池田さ、池田達、近藤明、近藤幸、加藤、脇本

四川省・成都市・楽山市の概要

名古屋産業大学名誉教授　加藤　哲男

１．四川省の人口と経済

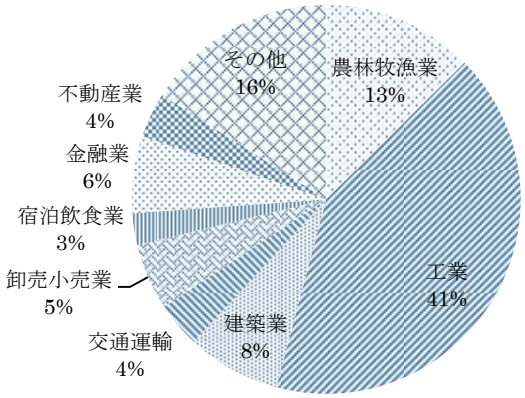
中国国家統計局のＨＰデータ[1)]に基づき、2015 年度の省・自治区・直轄市別の人口と生産総額(GDP)のベスト 10 を表－１に示した。それによると、人口・GDP ともに１位は広東省で、国全体に対する割合は人口で 7.91%、GDP で 10.07%を占めている。今回訪問した四川省は人口が 8,204 万人の４位(5.98%)、GDP は３兆 53 億元の６位(4.16%)であった。福井県と姉妹関係にある浙江省の人口 5,539 万人は 10 位(4.04%)であるが、GDP の４兆 2,886 億元は４位(5.93%)である。人口５位の江蘇省が GDP では２位に躍進するなど、長江デルタ地帯の経済発展状況が反映されている。そんな中で海に面していない四川省が GDP で６位と健闘しているのは、西部大開発と銘打って政府が工業化に力を注いだ結果であろう。四川盆地は、三国時代に蜀の国と称された豊かな地域であることが GDP に影響していると考えて良いかもしれない。

なお、四川省に隣接する直轄市の重慶市の値を四川省の値に加算すると、人口は１億 1,221 万人でトップ、GDP は４兆 5,770 億元で浙江省を抜いて４位になる。いずれにしても、四川盆地とその周辺地域での開発インパクトが数値に表れており、当該地域での大気汚染が危惧されることも頷けるところである。今回の訪問時は雨や曇りの日が多かったが、冴えわたる秋空には遭遇できなかった。

2014 年度の四川省の産業分類別構成比を図－１に示した。それによると、主要産業の工業が 41%を占め、

表－１　地区別人口・生産総額ベスト 10[1)]

順位	地区名	人口(万人)	地区名	生産総額(億元)
1	広東省	10,849	広東省	72,812.55
2	山東省	9,847	江蘇省	70,116.38
3	河南省	9,480	山東省	63,002.33
4	**四川省**	**8,204**	**浙江省**	**42,886.49**
5	江蘇省	7,976	河南省	37,002.16
6	河北省	7,425	**四川省**	**30,053.10**
7	湖南省	6,783	河北省	29,806.11
8	安徽省	6,144	湖北省	29,550.19
9	湖北省	5,852	湖南省	28,902.21
10	**浙江省**	**5,539**	遼寧省	28,669.02



図－１　四川省産業分類別構成比(2014)[2)]

一次産業の農林牧漁業は 13%である。二次産業の建築業 8%、三次産業の金融業 6%、卸売小売業 5%と続き、交通運輸業、金融業は 4%である。

新中国になってから国が推進した「三線建設」により製造業と軍需産業を中心とする第二次産業の大掛かりな移転が始まり、中国の中央にあり、山に囲まれている四川省、貴州省は最後の砦の第三線とされた。因みに沿海地方が第一線、中部の平原地帯や新疆、内モンゴルなどが第二線である。成都市、綿陽市、広元市、徳陽市にある電子、発電タービン、航空機、原子力、衛星関連の工業は、その元を辿れば、東北や上海などから移転してきたものである。四川省の第二次産業の特徴は、石炭石油天然ガスの採掘業、タバコ産業、電力産業、冶金工業、有色金属の冶金と圧延加工業、化学繊維製造業、製薬業、通信設備・コンピューター及び電子設備の製造業などの、資源や自然条件、資金、技術に頼る独占的産業が多く、国営的な性質の濃い産業と企業が業績上位を占めていると指摘されている[5)]。

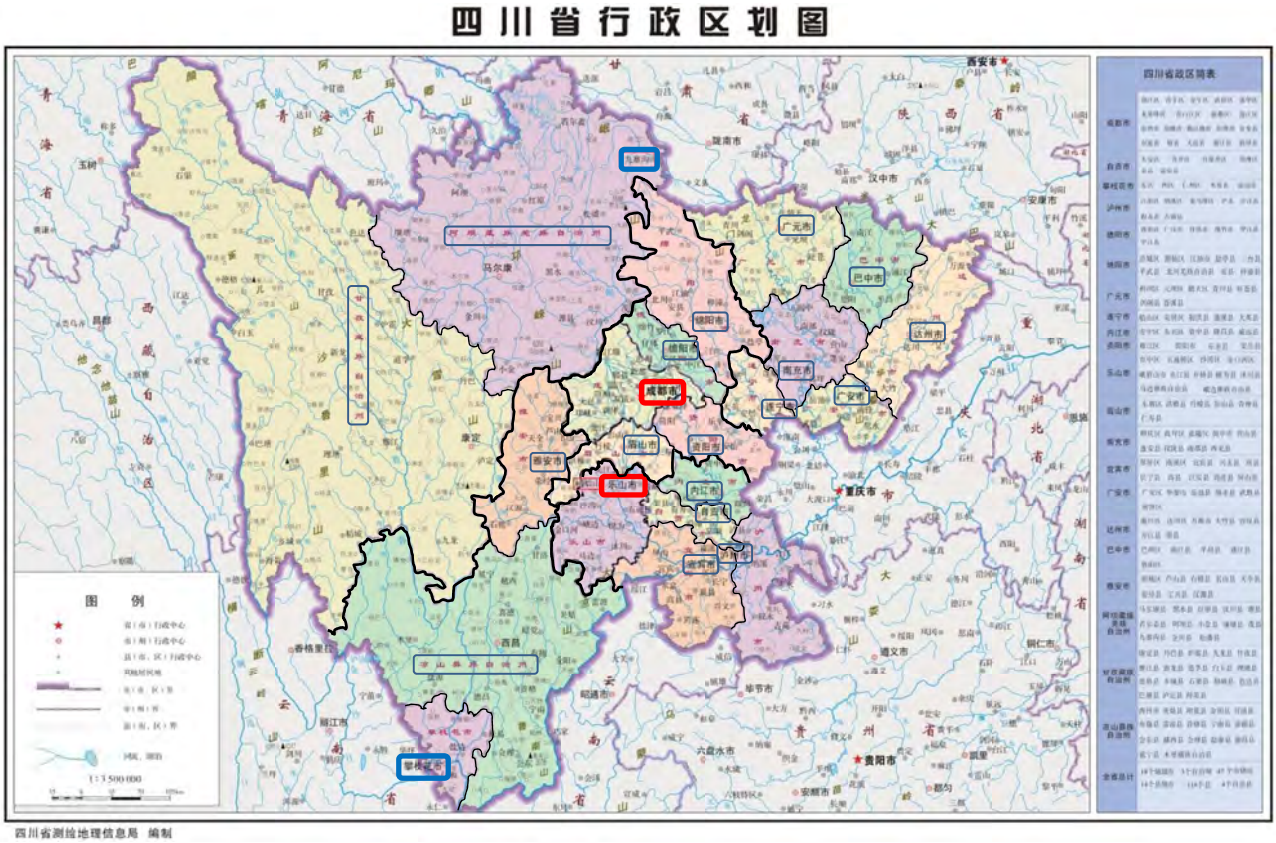
四川省の行政区域は 18 の市と３つの自治区に区分されており、今回の調査対象都市は成都市と楽山市である。四川省の 21 の行政区域（18 市・３自治区）の名称・人口・GDP(2014)を次頁の表－２に示した。それによると、人口・GDP ともに成都市がトップであるが、一人当 GDP で比較すると、成都市と肩を並べるのが攀枝花(はんしか)市である。この市は次頁の行政区域図を参照すると、南端の雲南省に接して位置していることが判る。長江の支流である金沙江を遡ると雲南省との行政界を通過して攀枝花市に達する。この市は鉄鋼業を主要産業としているが、攀枝花磁鉄鉱山は 1930 年代に発見されており、1960 年代になって鉄鋼産業と都市の開発が開始された。また、この地域は

鉱物資源が豊富で、バナジウムは中国国内の産出量の62.2%を占め、世界でも11.6%のシェアを持ち、チタンも世界一の産地であるとのことである[4]。興味深いのは産業分類別で一次産業比率が3%台なのは成都市と攀枝花市のみで、二次産業比率では攀枝花市のみが70%を超えていることである。

四川省は経済的に成都、西北部生態、攀西、南部、東北の五つのブロックに分かれている[5]。成都経済区（綿陽市、徳陽市、資陽市、眉山市）は主に商業貿易、ハイテク、近代的製造業、サービス業を重点発展分野にしている。九寨溝のある西北部生態経済区（阿坝藏族羌族自治州・甘孜藏族自治州）の主な産業は、水力発電、観光、鉱業、生態農業、牧畜業である。攀西経済区の主力産業は、エネルギー、チタンバナジウム新素材、鉄鋼で、前述の攀枝花市と雅安市、凉山彝族自治州が含まれる。南部経済区はエネルギー産業と重化学工業の基地で、楽山市の他に自貢市、内江市、濾州市、宜賓市が含まれる。東北経済区は天然ガスの宝庫で、化学産業基地でもある。シルク産業の南充市、鄧小平生誕地の広安市、養豚の巴中市、則天武后の出生地広元市、炭鉱をはじめ資源を重慶へ輸出する産業が盛んな達州市、遂寧市などが含まれる。

表－２　2014四川省行政区域別人口とGDP[2]

No.	名称	常住人口(万人)	GDP (億元)	一人当GDP元
1	**成都市**	**1,442.75**	**10,056.59**	**70,019**
2	南充市	633.38	1,432.02	22,639
3	達州市	553.00	1,347.83	24,411
4	綿陽市	473.94	1,579.89	33,558
5	凉山彝族自治州（りょうざんいぞく）	462.00	1,314.30	28,556
6	宜賓市	447.00	1,443.81	32,318
7	濾州市	425.00	1,259.73	29,655
8	内江市	373.26	1,156.77	31,024
9	資陽市	354.72	1,195.60	33,592
10	徳陽市	351.09	1,515.65	43,091
11	巴中市	332.21	456.66	13,756
12	遂寧市	328.25	809.55	24,691
13	**楽山市**	**325.00**	**1,207.59**	**37,125**
14	広安市	323.16	919.61	28,489
15	眉山市	298.97	944.89	31,664
16	自貢市	274.58	1,073.40	39,145
17	広元市	257.50	566.19	22,117
18	雅安市	154.37	462.41	30,052
19	攀枝花市（はんしか）	123.20	870.85	**70,646**
20	甘孜藏族自治州（かんぜちべっとぞく）	114.79	206.81	18,096
21	阿壩藏族羌族自治州（あばちべっとちゃん）	92.03	247.79	27,043



図－２　四川省行政区域図[3]

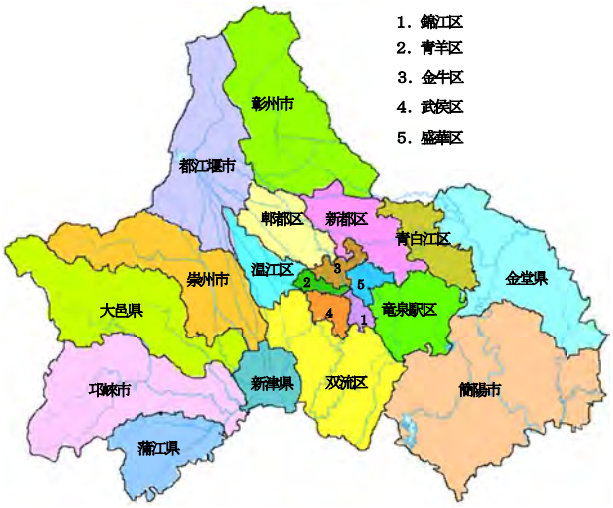
２．成都市の人口と経済

成都市は四川省政府の存在する地級市で、2015 年末の戸籍人口は 12,280,485 人である。表－２の常住人口とは 210 万人の差があるが、農村戸籍の人間が都市に住んでいることが要因である。表－３に 2015 年時点の 10 区、5 県、4 市別の戸籍人口と GDP を示した。表の註にも記したように、成都市の行政機構が 2016 年に変更され、隣接する資陽市から県級市の簡陽市（面積 2,213 ㎢、人口 148.6 万人）が編入され、郫県は郫都区に変更されていることから、現時点では 11 区、4 県、5 市の体制となっている。前頁の図－２は 2015 年時点のものであるため、簡陽市はまだ資陽市に含まれている。

ところで、成都市に簡陽市が編入されたという記述は理解に苦しむかもしれないが、中国の市には三つのランクがある。最も上位は省と同じレベルの省級市で、北京、天津、上海、重慶の４市がある。成都市、杭州市、南京市、大連市などは地級市と呼ばれ、省の下のランクに位置づけられる。その地級市の下の区や県と同じレベルの市が県級市なのである。日本の都道府県と市町村が明確にランク分けされているのに比べて判り難い面があるのも事実である。

人口密度が㎢当たり 6,000 人を超える中心部の 5 区は環城高速（四環路）に囲まれた区域が該当し、成都市の総合計画ではこの区域が中心城区として位置づけられている。中心部の５区の面積合計は 465 ㎢で成都市全体面積 12,121 ㎢の僅か 3.8%に過ぎないが、合計人口は 3,372,428 人で市全体の 27.5%に達している。

図－４に成都市の 2015 年度の区県市別の産業分類別比率を示した。それによると、中心部の５区のみで第３次産業比率が 80%前後を占めており、第２次産業比率もこの５区だけが 20%前後以下である。中心部５区に続いて第３次産業比率が高いのが都江堰市で、青城山や都江堰といった世界遺産への観光産業が反映しているものと思われる。第２次産業比率が最も高く、

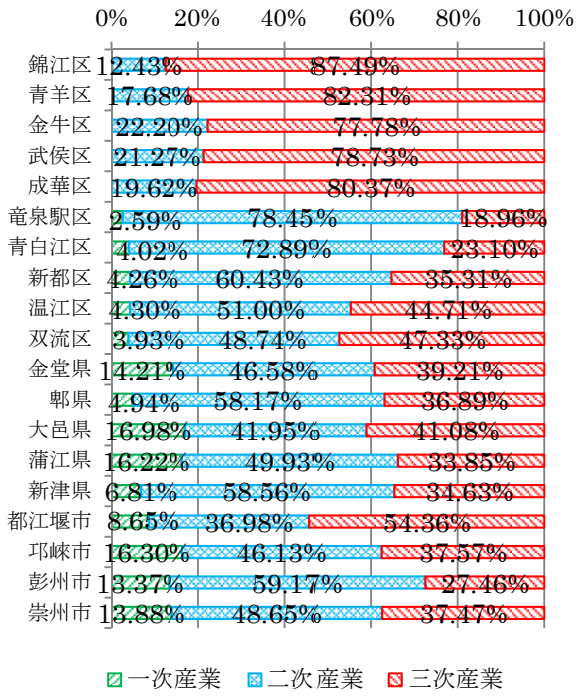


図－３　成都市行政区域図 8)

表－３　成都市行政区域別人口と産業(2015) 6)

No.	名称	人口(人)	人口密度(人/㎢)	GDP(万元)
1	錦江区	511,578	8,233	7,681,896
2	青羊区	656,091	9,822	8,681,370
3	金牛区	755,994	6,990	8,753,708
4	武侯区	1,085,989	8,755	7,951,709
5	成華区	722,776	6,623	6,932,083
6	竜泉駅区	643,441	1,147	10,021,326
7	青白江区	417,718	1,101	3,382,561
8	新都区	733,601	1,464	5,827,700
9	温江区	415,335	1,484	3,915,784
10	双流区	1,038,843	959	8,676,111
11	金堂県	892,037	772	2,850,974
12	郫県	558,600	1,260	4,259,679
13	大邑県	511,811	399	1,830,048
14	蒲江県	267,792	461	1,059,271
15	新津県	312,956	949	2,301,816
16	都江堰市	620,468	513	2,753,768
17	邛崍市	658,733	478	2,042,066
18	彭州市	808,140	569	3,335,497
19	崇州市	668,582	615	2,260,951

註;2016 年 5 月に資陽市の県級市の簡陽市が成都市に編入され、11 月には郫県が郫都区に変更された。

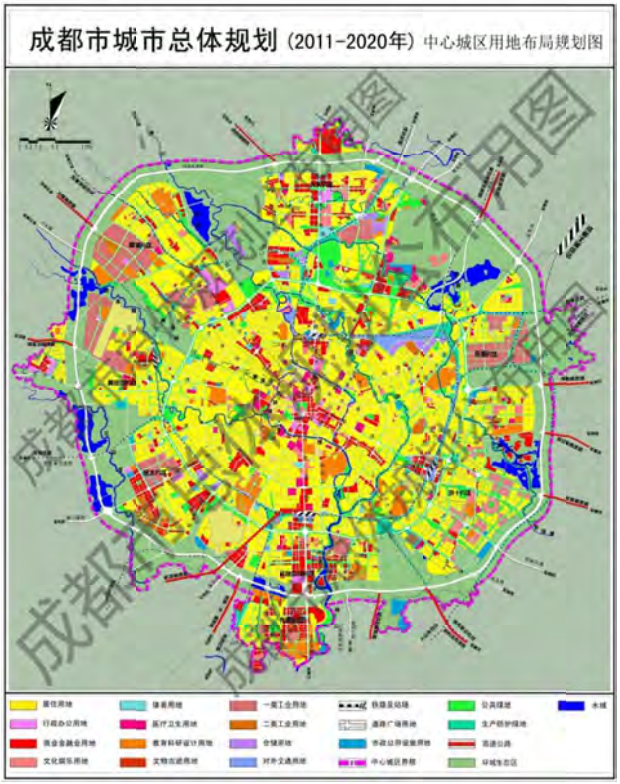


図―４　成都市 2015 区県市別産業分類比率 6)

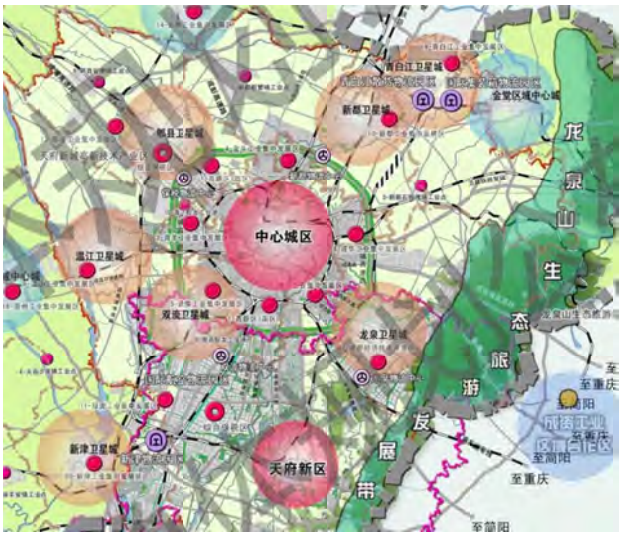
78.45%に達する竜泉駅区には、自動車、宇宙産業を含む国家科学技術開発区がある。続いて比率の高い青白江区（72.89%）は、従来の化学工業に加え、鉄鋼業の移転を受け、重工業地区に成長している[5]。

図－５に都市総合計画中心城区土地利用計画図[7]を示したが、住居用地が大部分を占め、商業、工業が分散して配置されている。また、環城高速（四環路）沿道区域は環境生態区となっており、高速道路沿道の環境緑化政策が土地利用計画にも位置づけられている。三環路と四環路の間には東西南北に比較的規模の大きい工業用地が配置されており、これらは工業団地として行政が計画したものである。

図－６に成都市産業配置計画図の一部を示したが、工業集中発展区として中心部から周辺部に番号が付けられている。１－高新区（西区・南区）、２－錦江、３－青羊、４－金牛、５－武侯、６－成貨、７－成都経済技術開発区（竜泉）、８－温江、９－青白江、10－新都、11－双龍、12－郫県、13－都江堰、14－彭州、15－邛崍、16－崇州、17－金堂、18－大邑、19－蒲江、20－新津である。産業配置計画としては、全ての区県市に工業集中発展区が計画されているのである。中国でも均衡ある産業振興を図ろうとしているということになるようだ。その成果が図－４に示した第２次産業比率に現れていると考えていいだろう。



図－５　成都市中心城区土地利用計画図[7]



図－６　成都市産業配置計画図（一部）[7]

３．成都市の日系企業[11]

現在成都市に進出している日系企業は成都日本商工クラブの会員企業数で約140社あり製造業やサービス業など幅広い分野に進出している。1980年代の伊藤忠商事に始まり、2000年以降の10年間で100社に達した。中でも「イトーヨーカ堂」の成功は有名で7店舗を構えている。筆者は2013年の訪問の際に、都心部商業空間の調査のために春熙路を訪問したが、隣接地には「伊勢丹」も開業しており、店内は賑わっていた。その店で四川省の土産品を物色し店員に尋ねたところ、取り扱っていないと回答され、納得した思い出がある。近年では日系の飲食店の進出が目立ち、「すき家」が２年間で15店舗を展開し「和幸」「元気寿司」なども成都市民に受け入れられているようである。今回の調査団の食事は全て四川料理店であったが、郷に入っては郷に従えの諺に従ったもので、海外で日本料理を摂るのは体調を崩した時に限ることにしたものである。

写真－１　春熙路の伊勢丹とイトーヨーカ堂(2013. 9. 6 撮影)

表－４　成都市進出の日系企業[11)]

企業名	進出状況
製造業	
コベルコ建機	油圧ショベル、ミニショベルを製造
東レ	樹脂コンパウンドを製造
日立製作所	昇降機を製造
トヨタ自動車	中型バス「コースター」とオフロード車「ランドクルーザー」を製造
サービス業・小売業	
SMBC(プロミス)	消費者金融事業を展開
三菱東京 UFJ	成都支店を開設し金融事業を展開
イトーヨーカ堂	1997 年 1 号店成都市、2014 年 6 号店温江区、2017 年 7 号店眉山市
伊勢丹	2007 年春熙路に店舗開設
セブンイレブン	2011 年 3 月成都市出店、現在 66 店舗
無印良品	成都市内に 12 店舗展開
ユニクロ	成都市内に 19 店舗展開

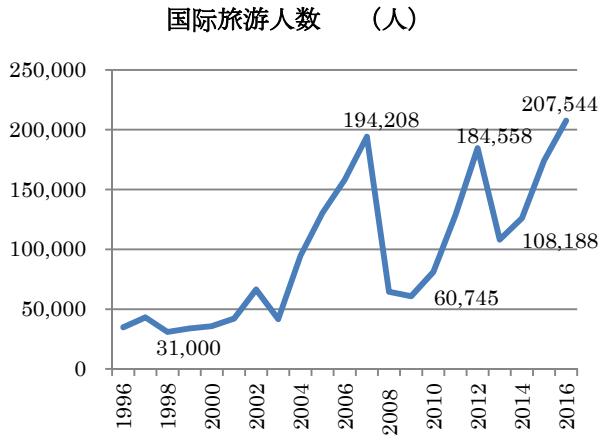
表－４に成都市に進出している日系企業の一覧を示した。製造業では建設機械、繊維、エレベーターや自動車など、日本でも馴染み深い企業が進出している。サービス・小売業では、消費者金融業の進出が興味深い中で、日本全国に展開している小売店舗が中国でも数多く出店されていることが判る。

４．楽山市の観光実態と産業

楽山市は四川省にある 18 の地級市の一つで、南部経済区に含まれ、2014 年の人口が 325 万人、GDP が 1,207.59 億元、一人当たり GDP が 37,125 元であることは表－２に示してある。この一人当たり GDP は四川省内では攀枝花市、成都市、徳陽市、自貢市に次いで第５位である。楽山市には 1996 年 12 月 6 日に文化面、環境面両方が考慮されユネスコの世界遺産（複合遺産）に登録された「峨眉山と楽山大仏」があり、これらによる観光収入も GDP に反映されてはいるが、第２次産業も活発で、多結晶シリコンと太陽電池、建築資材（セメントなど）、塩・燐工業、クリーンエネルギー、農産物加工が５大産業とされている[8)]。

図－７に楽山統計年鑑[9)]に公表されている海外観光旅客数の推移（1996～2016）を示した。それによると、1998 年には僅か 31,000 人であったものが、2007 年には 19 万人を超えた。しかし 2008 年 5 月 12 日にアバ・チベット族チャン族自治州汶川県を震源とする M7.9 の四川大地震に襲われたため、観光客数は激減している。さらに、2012 年には 18 万人まで回復したものの、2013 年４月 20 日に雅安市を震源とする M7.0 の四川地震に見舞われ、再び入込客数が減少している。そして、2016 年に 20 万人を超えたところ、2017 年 8 月 8 日に M7.0 の九寨溝地震にまたしても遭遇してしまったのである。なお、海外旅客数の内訳は、台湾 61,082 人、澳門 27,336 人、香港 38.396 人で全体の 61%を占めており、外国人は 39%であった。

表－５に楽山統計年鑑に掲載されている主要観光地への旅客人数、入場料収入、遊覧費を示した。それによると、世界遺産の峨眉山・楽山大仏のシェアは旅客数で 62.5%であるが、遊覧費で 90.5%、入場料収入では 95%に達している。今回、私どもが訪問しなかった観光地のうち、来江県にある千仏岩摩崖仏像は南北朝から隋、唐、宋、元代までに作られたものであるが、その多くは唐代の作品であるようだ[10)]。



図－７　楽山市訪問国際旅客数推移[9)]

表－５　楽山市主要観光地の観光客数と収入[9)]

2016 年	旅客人数（万人）	入場料収入（万元）	遊覧費[註)]（万元）
楽山市合計	1, 096. 4	73, 516. 8	136, 671. 9
峨眉山	322. 4	44, 633. 9	97, 812. 9
楽山大仏	363. 2	25, 218. 0	25, 993. 0
東方仏都	67. 6	2, 657. 7	2, 657. 7
烏木文化博覧苑	16. 7	285. 0	285. 0
郭沫若故居	34. 8	4. 7	10. 0
犍为嘉阳桫椤湖	73. 8	103. 3	5, 864. 9
金鷹山荘	32. 3	－	1, 111. 2
竹叶青生态茗园	39. 5	－	1, 928. 7
千佛岩	106. 6	357. 5	379. 9
犍为文庙	49. 5	256. 7	628. 7

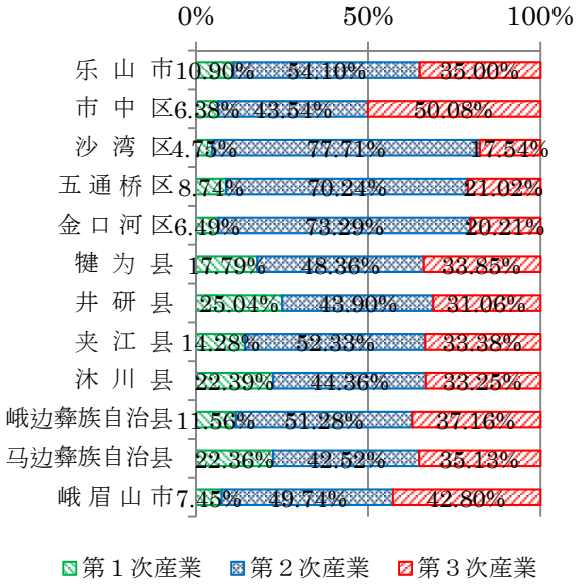
註）遊覧費には索道(Lope-Way)費用収入を含む

図－８に楽山市の行政区域図を示した。楽山大仏のある市中区と峨眉山市は楽山市の北部に位置しており、今回訪問したのはこの両地域のみである。峨眉山市は省直轄であるが現在のところ地級市の楽山市が代わりに管轄する県級市となっている。

図－８　楽山市行政区域図 [12]

2016 年末の人口は 43.28 万人、GDP は 231 億 5,477 万元である。このうち第３次産業は 99 億 1,116 元（構成比 42.8%）で、楽山大仏のある市中区に次いで多い。

図－９に楽山市の市全体と区県市別の産業分類別比率(2016)を示した。それによると、第３次産業比率は市中区が 50.08%で第１位、第２位は峨眉山市の 42.80%であった。第２次産業比率の高い沙湾区、五通橋区は第２次産業 GDP 額で、１位と４位を占めており、２位が市中区で３位が峨眉山市である。楽山市では観光業への影響をできるだけ少なくするために、景勝地から離れた地点に工業開発区を設置し、集中的で大規模な工業発展を目指しているようである [5]。その対象地が沙湾区、五通橋区、金口河区ということになろう。



図－９　楽山市の 2016 年区県市別産業分類比率 [9]

楽山市は四川省で最も早く開発された地区の一つで、秦の時代にすでに製塩業と冶金業が成立し、唐の時代には農業と手工業がさらに繁栄していた。現在では、四川省の食糧、肉類、野菜の生産基地だけでなく、石炭、セメント、発電、機械製造、製紙、塩化学の生産基地でもある [5]。

楽山市と言えば世界遺産に注目してしまいがちであるが、四川省南部経済区の中心都市としての経済活動も見過ごせないのである。成都市からの高速道路は観光道路という側面もあるが、基本的には重要な産業道路であったということである。

補注・参考文献

1) 中華人民共和国国家統計局、地区別年度データ <http://www.stats.gov.cn/>
2) 四川統計年鑑 2015、四川省統計局ホームページ <http://www.sc.stats.gov.cn/tjcbw/tjnj/2015>
3) 魅力四川、四川省行政区域図 <http://mlsc.showchina.org/content.do>
4) 攀枝花市、ウィキペディア参照 <https://ja.wikipedia.org/wiki>
5) 四川省の経済・産業ガイド・財団法人日中友好協会、2010 年３ 月 <www.jc-web.or.jp/jcea/publics/download>
6) 成都統計年鑑 2016、成都市統計局ホームページ <http://www.chdstats.gov.cn/htm/detail_63038.htm>
7) 成都市人民政府ホームページ <http://www.chengdu.gov.cn/>
8) 成都市、楽山市　ウィキペディア参照 <https://ja.wikipedia.org/wiki>
9) 楽山統計年鑑 2017、楽山市統計局ホームページ <http://stjj.leshan.gov.cn/stjj/tjnj/list.shtml>
10) 旅情中国、中国旅行ガイド <https://www.chinaviki.com/china-travel
11) 成都スタイル（新版／2017 年３月）、日本貿易振興機構（ジェトロ） <https://www.jetro.go.jp/world/reports/2017/>
12) 蚂蚁图库< www.mypsd.com.cn>